

ティーチング・ポートフォリオ

健康科学大学 看護学部 看護学科

教授 山崎 洋子

1. 教育の責任

< 講義・演習 >

看護体験演習
公衆衛生看護学概論
公衆衛生看護支援論

< 実 習 >

在宅看護学実習
公衆衛生看護学実習Ⅰ
公衆衛生看護学実習Ⅱ
看護研究Ⅱ

< 保健師現任教育 >

現任教育研修
保健師教育研修

< 研究活動 >

保健師活動研究
家庭訪問援助分析
保健師教育方法研究

< 所属学会 >

日本地域看護学会
日本ルーラルナーシング学会
日本公衆衛生学会
日本公衆衛生看護学会
日本セルフプロモーション学会

< 社会貢献 >

食育推進会議
介護保険運営協議会
地域ケア会議
看護協会保健師職能委員

2. 教育の理念・目的

学士課程の看護学教育の一領域として、地域・在宅看護学及び公衆衛生看護学を位置づけ、地域の医療・福祉の将来を担う人材を育成する。

3. 教育の方法

看護学の教育方法として、講義では、地域看護の理念、知識を教授するとともに、対象の健康生活を理解し、アセスメントする能力を養い、演習では、対象の健康生活を妨げる課題

の解決に向けた問題解決の方法・技術を事例検討、ロールプレイ、グループワークなどの方法を用いて習得させ、実習では、講義・演習で示した理論、技術を実際の看護の展開される場で確かめ、検討する方法をとる。特に、実習では、地域における多様な人材と協働し、地域共生社会をめざす地域の看護実践を伝える。

4. 教育の成果・評価

<教育の成果>

保健師課程を選択する学生のうち、卒後保健師として県内外に就職した学生は、1回生～4回生まで毎年3, 4人しており、県内看護系大学の中でも多いほうであり、地域で活躍する本学の卒業生が増えることは、本学の発展や学部学生の確保にもつながる良い成果と考えている。

<研究成果>

担当する領域は、社会や政策の変化の影響を受ける領域であり、常に所属学会誌や学術集会に参加し得た最新の知識技術を教育内容に反映させるようにしている。看護学教育の共同研究からの成果物として作成したサブテキストも活用するようにしている。

<社会貢献>

本学部の使命として、地域の看護人材の育成があるが、自治体の求めに応じて現任教育にも関わり、本学部の価値を高めていけると考えている。

<改善>

- ・ 領域を超えた演習・実習方法を検討、開発し、地域のニーズに即した看護人材を育成する方法をさらに充実させる。
- ・ 卒業した学生の卒後現任教育を行い、実践能力を高める。
- ・ 新カリキュラムによる教育成果を検討する研究の着手
- ・ 保健師や訪問看護師の活動を知らずに入学してくる学生に対する早期からの地域看護学教育。
- ・ 教育教材としての動画やメディアの活用
- ・ リハビリテーション学科との IPE 教育の充実を図る

5. 今後の目標

地域の保健・医療の発展に貢献する看護師・保健師を育成する。

<教 育>

- ・ 新カリキュラム進行に伴う地域看護学教育の充実

<研 究>

- ・ これまでの保健師活動研究の集大成をすること
- ・ 科学研究費補助金の共同研究者としての役割を果たすこと

<長期目標>

- ・ 社会の変化に柔軟に対応する看護人材の育成